

COVID-19 と臨床検査 得られた知見を今後の医療に活かす

新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) は、WHO で 2020 年 3 月 11 日にパンデミック宣言がなされ、猛威を振るってきました。2022 年 8 月の第 7 波ではわが国の感染者数が世界最高となり、2023 年 1 月には第 8 波が到来、5 月 8 日には 5 類感染症に移行しましたが、今もって終息したわけではありません。この 3 年、長きにわたる COVID-19 との闘い、話題は尽きません。ウイルスが社会を大きく変えました。この背景において特集号として COVID-19 を取り上げました。これまでに得られた知見は膨大で、臨床検査医学領域においても同様です。COVID-19 検査法についてはすでに多くの能書、学会誌が発刊されていますが、主に検体採取法・検体種別による違い、各検査法の意義・感度特異度・精度管理法などにフォーカスされています。

本号の特集では「COVID-19 と臨床検査」の視点で、これまでに得られた知見の総集編として今後の展望も含めてご執筆いただきました。今後のさらなる未知の感染症に備えるためにも本特集をご活用いただけますと幸いです。

横田浩充 (慶應義塾大学病院臨床検査技術室)